

社会福祉法人翠燿会

令和 7 年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
同上 サテライト訪問介護
グリーンヒル八千代台南デイホーム
グリーンヒル八千代台キッズルーム
共生 café ふらっとホームグリーンヒル

障害児通所事業

グリーンヒルキッズ村上
グリーンヒルキッズゆりのき台
グリーンヒルキッズジュニア

自立援助ホーム

グリーンヒル若葉ハウス

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人本部総務課

令和 8 年 5 月

社会福祉法人 翠燿会

総括案 7年度の振り返り、8年度の方針共有。

社会福祉法人 翠耀会
常務理事 津川康二

新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行され5月8日で3年を迎えた。一昨年、コロナ感染、インフルエンザA感染症がまん延し、総計100名(従事者含む)の感染者が発生するなど、注視が必要であったが、昨年度はこれほど大きな集団感染は認められず、現場の介護、看護、管理栄養士、そして総務課職員による対策、強い連携により実践されたと評価できる。今後も在宅・入所の高齢者支援のみならず、児童支援ふくめ、今後も感染症予防対策を図りつつ、ご利用児・者の健康を守りたい。

7年度後半期報酬改定、更に8年度期中改定により、処遇改善費用は約1.9%づつのプラス改定となったが、人材確保がこれまでにない困難であることに加え、賃金の上昇、諸物価の高騰等も重なり法人の経営環境は非常に厳しい状況にある。

法人として、事業の見直し、再編をはじめ、来年度の報酬改定(公定価格)では時代の変化に対応していないことを地元自治体はじめ、千葉県、国へも強く訴えていきたい。

現在の介護保険計画の進むべき方向性として、「重層的支援体制の構築」属性を問わない相談支援、地域づくりに向けた支援等に着目する。次に医療ケア、認知症ケアを要する高齢者のニーズは高い。さらなる医療と介護の連携の推進は、他の事業所にはない、当グループ(医療法人社団恵仁会と翠耀会)の要である。地域包括ケアシステムの深化・推進を強化したい。

また国は一定の賃金改善を目指すもいまだ全産業平均賃金との格差は大きく、同時に介護人材確保の難しさも顕著でもある。が、この複数年パンデミックの中でも献身的にご利用児・者のサポートに専任し続ける従事者は270名を数える。

良質なサービス提供のために、研修計画の充実とあわせ、計画にそった利用稼働率を目指し、全職員の処遇改善を目指したい。

おわりに、八千代市の新たな3か年の保険料基準は月額5,640円で全国平均を下回る。

しかしながら市内の介護事業所数は200か所を数え、施設系はサービス付き高齢者住宅、有料老人ホームを加え約70か所、通所系、訪問介護系も各々70か所とサービス供給体の激化は目立つ。(放課後等デイ事業も同様)

厳しい時代だからこそ、社会福祉法人としての使命・責任を全職員とともに再確認しあい、各事業に取り組んでいきたい。

なお、各事業の報告並びに今後の対策等は別紙のとおりである。

【令和7年度 特養グリーンヒル 事業報告】

1) 目標稼働に対する実働状況

令和7年度に於ける稼働率(特養+短期)年間目標値115に対し、年間を通し110.4・平均稼働率92.0%という結果でした。年間の入院延べ日数は1,712日、平均介護度4.0・要介護度4・5割合67.6%・認知度自立度Ⅲ以上の割合76.5%となっており、重度者・認知症高齢者への対応が中心となる。

長期入所は35名であり、入所経路は以下の通りです。

在宅(30%)・回復期リハビリ病院及び医療機関(30%)・老人保健施設及びグループホーム(20%)介護負担の高まりを背景に、在宅生活の継続が困難となったケースが多く、医療機関・他事業所などの連携を図りながら受け入れを行いました。

退所者が32名であり、退所経路は以下の通りです。

看取り13名(40%)・入院中に他界9名(30%)・長期入院9名(30%)・急変対応2名・他施設入所1名。看取りケアにおいては、食事・水分量低下やバイタル不安定など状態変化が著しくみられた際に、嘱託医よりご家族へ丁寧な説明・意向確認を行い、多種職連携のもと看取り支援を実施。ご利用者及びご家族の思いに寄り添い、最期まで施設で安心して生活できる支援の重要性を再認識する一年となりました。

又、救急搬送・受診後の入院加療において、ご家族と面談を行った結果、点滴・酸素投与などの医療的処置を希望されるケースも多く、療養病棟へ移行や入院中の逝去に至るご利用者も見受けられました。

年末時点での入所申込者は40名。申し込み時点で速やかに事前面接を実施し、候補者確保に努めるとともに、病院・居宅事業所・他施設と連携し円滑な入所調整を進めました。又、空所期間の短縮を図るため、短期入所の活用や長期利用への移行提案を行い、短期入所稼働率の向上に努めました。

2) 組織体制・サービス体制

・生産性向上の取り組みとして、伴走支援の補助金を活用し、3丁目に見守りカメラ・短期入所にセンサーベットを導入。これにより、ご利用者の動きから転倒や急変などの早期発見や事故発生時の状況把握・検証が可能となり、介護負担軽減とケアの質の向上に繋げることができました。取得した画像を確認しながら職員の対応方法を振り返ることで、事故防止・対応手順の見直しや職員教育に活用し、安全で質の高い介護サービスの提供を努めます。

・環境面で3丁目フロアの改装工事に伴い、機械浴・フロアマット・トイレなどの修繕・設備を実施。環境改善により、ご利用者の安全性と快適性の向上を図れました。今後も、生活環境の整備を継続し、ご利用者一人ひとりの生活に寄り添ったサービス提供の心

掛け、生活支援に努めます。

・感染症については、職員の健康管理・早期対応を行い、施設内への持ち込み防止に努め、大規模クラスターの発生を回避することができました。ご利用者に対しては、嘱託医・看護師・介護職の連携し、早期検査・治療に繋げることができました。

3) 介護指針の構築

・外部研修、法定研修に参加し、各職員が知識・技術を習得に努めることができた。一方で、各会議での場で学びを発表し共有することができていなかったため、来年度は研修内容の整理と発表の機会確保を課題が挙げられます。

・集団と個別の双方で継続的に実施し、ご利用者の身体機能を維持・心のケアにも力を入れて取り組み・実施しました。

令和7年度 グリーンヒル特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
月末利用登録者	101	103	105	106	109	110	110	109	109	110	103	101	1,276	106.3
入所延日数	3,004	3,136	3,110	3,278	3,322	3,293	3,396	3,281	3,389	3,379	2,954	3,163	38,705	3,225.4
入院延日数	60	50	147	193	144	186	50	88	179	213	167	235	1,712	142.7
利用実日数	2,944	3,086	2,963	3,085	3,178	3,107	3,346	3,193	3,210	3,166	2,787	2,928	36,993	3,082.8
1日平均利用者数	98.1	99.5	98.8	102.8	102.5	103.6	107.9	106.4	103.5	102.1	99.5	94.5		101.6
平均介護度	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9		4.0
(介護度4・5割合)70%	68.1%	67.8%	67.1%	68.1%	67.3%	68.9%	68.9%	67.5%	67.7%	67.1%	67.0%	65.5%		67.6%
新規入所者数	2	5	3	3	3	4	2	3	2	5	1	2	35	2.9
日常生活継続支援加算 (介護度4・5割合)70%	38.9%	44.4%	47.4%	45.0%	50.0%	65.0%	60.0%	61.1%	52.9%	57.9%	58.8%	47.1%		52.4%
(内介護度4以上)	2	2	3	1	1	4	1	1	1	2	0	2	20	1.7
(内認知度Ⅲ以上)	2	3	3	2	1	4	1	3	1	3	0	1	24	2.0
退所者数	0	2	2	1	0	3	2	4	2	7	5	4	32	2.7
負担限度額認定者	44	46	48	45	39	48	49	50	47	48	46	42	552	46.0
短期請求件数	20	24	22	19	18	26	20	19	18	18	16	14	234	19.5
短期入所延日数	404	356	244	238	260	248	347	301	302	242	186	179	3,307	275.6
特養・短期合計延日数	3,348	3,442	3,207	3,323	3,438	3,355	3,693	3,494	3,512	3,408	2,973	3,107	40,300	3,358.3
特・短1日平均数(予算115人)	111.6	111.0	106.9	107.2	110.9	111.8	119.1	116.5	113.3	109.9	106.2	100.2		110.4
稼働率/120	93.0%	92.5%	89.1%	89.3%	92.4%	93.2%	99.3%	97.1%	94.4%	91.6%	88.5%	83.5%		92.0%
前年度稼働率	90.7%	92.9%	91.7%	92.9%	98.6%	98.0%	97.8%	96.6%	94.3%	92.3%	94.1%	92.3%		86.7%
前年度との比較	2.3%	-0.4%	-2.6%	-3.6%	-6.2%	-4.8%	1.5%	0.4%	0.1%	-0.7%	-5.6%	-8.7%		-1.6%

令和7年度 1丁目 すずらんフロア事業計画実績

I. 介護理念

【ゆったりのんびり落ち着いた環境で安心して過ごして頂く】

実績

- ・基本的にはご利用者が安心できる平穏な環境維持に努められたものの、一部の時間帯において職員間の連携不足が生じ、一時的に現場が多忙を極め、落ち着きを欠く状況を招く場面がありました。
- ・昨年度まで恒常的に発生していた感染症については、今年度は未発生に抑えることができた。これは日々の徹底した衛生管理に加え、医務との緊密な連携による健康管理体制が奏功した結果であり、ご利用者の安全かつ平穏な生活維持に大きく寄与した。

II. ケアの重点項目

【楽しみのある生活】

- 季節の行事(外出やおやつ作り)を行ない、その時その時の変化を感じていただけるようにする。
- 日々の生活の中で朝の集いや体操、他余暇活動(カラオケや工作や映画鑑賞等)を行ない、楽しみのある生活を送っていただく。

実績

- ・外出機会については回数に課題を残したものの、夏季の花火や春季の観桜など、季節感を重視した行事の実施により生活の質の維持・向上を図った。また、工作やゲーム等の余暇活動においても、前年度を上回る実施実績を確保できている。完全な定着（毎日実施）には至らなかったが、入居者の活動機会を増やす取り組みは着実に進展した。

【ご利用者との信頼関係を築く】

- 企画等でご利用者楽しんでいただくと共に、ケアワーカーも一緒に楽しむことにより信頼関係構築を図る。
- ご利用者の能力把握に努め、一人ひとりに合ったケアを柔軟に提供する。また、その状態で停滞するのではなく、更なる向上に向けてご利用者・ケアワーカー・機能訓練が一緒に取り組んでいく。

実績

- ・ご利用者の嗜好に基づいた企画を展開し、おやつ作りや対話の機会を積極的に創出した。共同作業や交流を通じて、日常のケア場面では見られない潜在的な能力や新たな表情を把握することができ、個別ケアの充実に繋がる有益な知見を得ることができた。
- ・残存能力の活用を主眼に置き、食事や移動、排泄における自立支援に注力した。しかしながら、年度内に発生した転倒・骨折事故により、結果として一部の方のADL低下を招くこととなった。自立支援の取り組みと安全管理の両立において課題を残した形となり、次年度は事故予防の徹底と機能維持のためのアプローチを再強化してまいります。

【環境整備】

- 居室及び共有スペースの整理整頓を定期的に行うことにより、快適な空間維持を行なう。
- 中庭の環境を整えることにより、今まで以上に外気浴や企画等での活用を行なう。

実績

- ・居室等の整理整頓については、ご利用者の生活感や馴染みの環境を尊重しつつ、衛生的な環境維持に努めた。一方で、ケアワーカーの習熟度により整頓の質に差異が生じたことは否めず、今後はケアの標準化を図り、誰が担当しても一定の質を保てるようにする。
- ・中庭については、日常的な外気浴の場として一定の活用が図られた。しかし、具体的施策の策定まで至らず、検討段階に留まった。次年度はこれを継続課題とし、ご利用者の活動範囲を広げるための具体的活用策を具体化させていく。

III. チーム目標

- ご利用者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、尊厳を守ったケアを提供する。
- 楽しみを持った生活・明日が待ち遠しい生活を送っていただけるようにする。
- ユマニチュードを元にしたコミュニケーションを行なう。

実績

- ・コミュニケーションを図ることにより、ご利用者の行動に関して『なぜ?』と考えることが増えてきた。それにより、以前に比べてご利用者の思いを汲み取ることが出来るようになった。
- ・職員間で知恵を出し合い、前項にあるように前年度に比べて実施出来ている。ご利用者に求められる事の提供を行なっていきたい。
- ・ご利用者と同じテーブルにつき話をする等のコミュニケーションを実施することが出来た。

【来年度への反省】

I. 介護理念

- ・どのケアワーカーが勤務に入ったとしても落ち着いた環境で余暇活動を楽しみながら過ごすことが出来るように予定表などの作成と周知を行なっていく。
- ・感染症の発生は無く過ごしていただく事が出来た。引き続き発生の予防と早期発見に努める。

II. ケアの重点項目

【楽しみのある生活】

- ・季節感のあることは出来ているが、ケアワーカーが考えた企画の実施となっている。ご利用者のニーズ(意見)を聞いたうえでの企画の作成と実施を行なっていく。
- ・前年度に比べて実施することのできているので、来年度は楽しみとリハビリを合わせて身体機能の維持も併せて行なっていく。

【ご利用者との信頼関係を築く】

- ・ご利用者の変化もあるので、引き続き企画・コミュニケーションを通して信頼を築き、安心して過ごしていただけるように尽力する。
- ・事故の防止に取り組むことは当然として、それと合わせてご利用者の身体動作を補助して ADL 低下の予防を図る。

【環境整備】

- ・ご本人の生活歴・ADL を主軸に日々の生活の中でちょっとした気遣いを行なう。整理整頓の必要性が無いような環境を継続していく必要がある。
- ・企画と合わせて、中庭のちょっとした活用方法を改めて模索していく。

III. チーム目標

- ・ご利用者の尊厳について考える良い機会になったが、それをケアに生かすことが出来ているかは疑問が残る。基本を忘れず幅を広げて対応していきたい。
- ・物品の活用方法を見出して、有効活用・楽しみの新設に取り組んでいきたい。
- ・ご利用者とのコミュニケーション時間を増やすことには成功したと言える。より一層ご利用者の理解を深め、それをケアに生かせるようにしていく。

令和7年度 1丁目 あやめフロア事業計画実績

I. 介護理念

【最期の時を迎えるまで、快適・穏やかに過ごして頂けるようにする。】

実績

- ・日々の生活において、受容的な声掛けと個別に寄り添う時間を意識的に確保した。これにより、ご利用者の不安感の軽減と精神的な安寧を図り、事業計画の指針である『穏やかな生活環境』の構築に努めた。
- ・研修を通じ、ポジショニングによる安楽姿勢の保持について専門的知識を習得した。拘縮予防や褥瘡リスクの低減、呼吸の楽な姿勢作りなど、根拠に基づいた技術の導入により、ご利用者の苦痛緩和と生活の質の維持に努めた。

II. ケアの重点項目

【身体ケア】

- ADL表を作成し、随時更新・活用する事によりケアの方法の手順化を図り、誰が関わっても同じようにケアができ、サービスの質の維持が出来るようにする。
- 離床の時間を確保し寝かせきりからの脱却を図り、身体機能の維持と拘縮の進行抑制を行なう。
- 物品を有効的に使用することにより、ご利用者の生活の質の向上や難しかったケアを行なえるようにする。

実績

- ・ケアワーカー間の理解度や技術習得状況の差異により、ケアの質や離床時間の確保にばらつきが生じたことが課題として浮き彫りとなった。これを受け、情報の『伝達力』と『傾聴力』の重要性を再認識。
- ・眠りスキヤンの導入により、客観的データに基づいた生活リズムの把握が可能となり、ケアのあり方を再構築する基盤を整えた。今後は ICT 機器の有効活用を軸に、ケアワーカーの負担軽減と、より精度の高い個別ケアの両立に向けた具体的な運用フェーズへと移行する。

【環境整備】

- 居室及び個室の環境を整え快適に過ごして頂けるようにする。
- 物品を大切に使用して紛失・破損を防止し、ご利用者の不利益にならないようにする。
- 個別音楽療法を実施することにより、重度の方・看取り期の方の不安の軽減を行う。

実績

- ・環境整備を心がけて実施したが、継続性に欠ける場面があり、環境の質に波が生じる結果となった。常に一定の清潔保持・整理整頓がなされた状態を維持することが課題。
- ・経年劣化による備品・物品の破損に対しては、迅速な修繕および新規購入に繋げることで、入居者の生活環境の安全性と利便性を損なうことなく対応できた。また、新規導入物品についても適切な管理・運用を徹底しており、施設資産の適正な維持管理に努めている。
- ・音楽療法については、担当者の交代という変化があったものの、円滑な引き継ぎにより安定した提供を継続した。特に看取りにおける個別音楽療法を重点的に実施し、聴覚を通じた心地よ

い刺激や安心感の醸成を図ることで、入居者の不安緩和と尊厳ある平穏な時間作りに大きく寄与した。

【コミュニケーション】

- ご利用者一人ひとりとの関わり方を模索して、より良い方法での関係構築を行なうと共に、希望の実現に尽力する。
- 穏やかに最期の時を過ごして頂けるように、日々のかかわりの中でご利用者一人ひとりの意向・嗜好を把握する。

実績

- ・言語的コミュニケーションだけでなく、筆記や身振り手振り等の非言語的コミュニケーションを行ない、コミュニケーション方法の多様化を図ることで、言葉に頼らない意思疎通の可能性を模索し、相互理解の機会を創出することができた。
- ・認知症等の影響により、ご本人の嗜好や意向を正確に把握することに難渋する事例が見られ、全員把握には至らなかった。この反省を踏まえ、次年度はご家族との連携を再強化し、生活歴等の情報収集を深めることで、よりご本人らしい生活を支えるためのアセスメント能力の向上を図る。

III. チーム目標

- 介護計画書や24時間シートの見直しと発信によりケアの把握と実践ができるようにする。
- 情報の発信方法・受信方法の改善を図り、皆が情報の共有化が出来るようにする。
- 業務の効率化を図り、それによってできた時間をご利用者の楽しみの為に使う。
- ご利用者の方が穏やかにその時を迎えることが出来るように、居室・フロア環境の整備を行なうと共に、ご利用者の状態に応じて段階的にケアの見直しを行ない、安心安楽に過ごして頂けるようにする。

実績

- ・24時間プランの見直しについては個別ニーズを反映させながら順次実施したが、介護計画書への展開において策定時間の短縮が課題となった。計画の質を維持しつつ、よりタイムリーに現場へ反映できるよう、作成工程の効率化とスケジュール管理の徹底を次期の重点目標とする。
- ・日誌や連絡帳を活用した多職種間の情報共有は、前年度と比較し情報の精度・統一感ともに向上が見られた。今後はこの土台を活かし、情報伝達のタイムラグを最小限に抑える仕組みや、より円滑な意思決定を支援する共有手法の確立を模索していく。
- ・業務の効率化による時間の作成は少なからず行うことが出来たが、その時間は他の業務時間となることが多く、余暇活動等への活用は限られたものとなった。
- ・極力状態低下に転じないようにケアを継続してきた。ご利用者の状態により段階的にケアの変更を行なった。

【来年度への反省】

I. 介護理念

- ・業務の見直しを行ない多少の時間作成は出来た。しかし、記録や整理整頓・掃除等の業務に当ててしまい、まだコミュニケーション時間は不十分。再度時間配分について考えご利用者の為に使う時間を作成していく。
- ・ポジショニングについて学ぶことが出来たので、それを実践・応用し安心・安楽につなげていく。また、ポジショニングだけでなく、定期的にフロア会議などで研修・講習を実施し、基礎介護技術の維持・向上を図る。

II. ケアの重点項目

【身体ケア】

- ・道具の活用やケア方法の検討を行なうと共に、それを動画で発信する等、言語だけでなく皆が分かりやすく情報伝達・統一方法を検討・実践する。
- ・上記のようにケア方法を周知することにより誰でも離床が出来るようにしていく。また、道具の活用・使用方法についても同様に行なっていく。
- ・ICT 機器や介護ロボット(H a g 等)の活用により、適切なタイミングでのケアが行なえるようにしていく。

【環境整備】

- ・環境整備することは出来るので、次はそれを維持・継続していくことが課題となった。
- ・引き続き紛失・破損に注意を払い、それによるケアの停滞や不要な支出を抑える。

【コミュニケーション】

- ・意思伝達の為のコミュニケーションだけで終えていた。楽しみとしてのコミュニケーションも試行していく。
- ・もっと把握できるように早い段階で要求を引き出し、ADL 低下が大きくなならないうちに実現に向けて行動する。

III. チーム目標

- ・皆で協力して24時間シートの調整と介護計画書の作成が速やかに行なえるようにしていく。
- ・情報共有の方法について、日誌や連絡帳以外にも ICT 等を活用して、確実かつ手軽に共有・統一できるようにする。
- ・ICT 機器の活用や協力体制の構築により、業務の効率化を進めると共に活用方法についてフロア全体で相談方針決定していく。
- ・ご利用者の段階に応じた適切なケアについて学び、それを実践・応用してご利用者の快適な暮らしを支えていく。

大和 事業計画令和7年度実績

事業計画実績

1. 介護理念 【一人ひとりとの関わりを大切にする】

- ・担当ご利用者の気持ちを丁寧に聞き取り、その内容をケアに反映できました。

II、ケアの重点項目

【楽しみのある生活を送る】

- ・ご利用者に楽しんでもらえる企画を考え、実施ができました。
- ・誕生会がご利用者と相談し、希望を取り入れた内容で行うことができました。
- ・夕方の体操は日課として定着し、ご利用者の楽しみとなっているため継続していきたい。

【清潔感のある空間を心掛ける】

- ・こまめな窓の開閉による換気を実施し、環境面の配慮ができました。

III、チーム目標

【日々のご利用者との関りを通し、ご利用者の気持ちに沿った介護を行っていく。】

- ・季節に合わせた外出やお楽しみ会など、年間を通じた企画を考え実施することができました。
- ・業務量の多さから十分な関りが持てない場面もあったが、担当ご利用者とのコミュニケーション時間の確保を心がけ、ご利用者の気持ちに沿った介護を意識して取り組みことができました。

来年度への反省点

1. 介護理念 【一人ひとりとの関わりを大切にする】

- ・業務量が多く、ご利用者とゆっくり関わる時間を十分に確保できなかった。

来年度は仕事の内容や時間配分を工夫し、短時間でも声掛けや傾聴の時間を意識的に取り、

ご利用者一人ひとりの関わりを今までより増やしていきたい。

II、ケアの重点項目

【楽しみのある生活を送る】

- ・移動スーパーにご利用者をお連れすることは業務的に難しい場面もあるが、他部署の協力もあり、

楽しみに利用されているご利用者が増えてきている。来年度も声掛け・案内を継続していきたい。

【清潔感のある空間を心掛ける】

- ・ベッド周りの片付けは行っていたが、急なご家族の来苑時に、常に自信を持ってお部屋をお見せ

できる状態ではなかった。来年度は日頃から「いつご家族が来ても大丈夫な環境」を意識し、ベッド

周りやお部屋の整理整頓をこまめに確認する習慣をつけていく。

III、チーム目標

【日々のご利用者との関りを通し、ご利用者の気持ちに沿った介護を行っていく。】

- ・業務を見直し、ご利用者と関わる時間の確保に努める。
- ・日々のコミュニケーションを通じて、ご利用者の思いやニーズを把握する。
- ・把握した思いやニーズをケアに反映し、個別性のある介護を実践する。

撫子 事業計画令和7年度実績

事業計画実績

I. 介護理念『相手に寄り添い、温かい気持ちで接し、1つでも多くの笑顔を引き出す』

- ・担当利用者への声掛けを意識して話すことにより、ご利用者のことをより知ることができ、色々な話ができることでご利用者の笑顔を以前よりも引き出した。
- ・相手に寄り添って話そうとしたが、うまく気持ちが汲み取れずご利用者を怒らせてしまった。

II. ケアの項目

【尊厳を守る】

- ・職員同士で話す際、声量を気にせず話してしまい、プライバシーへの配慮が欠けていた。
- ・ご利用者の立場になって話を傾聴し、問題などを解決することでご利用者の安心感に繋がれた。
- ・「その人らしさ」を意識しての看取りケアは行えなかった。

【生活にゆとりと楽しみを】

- ・担当利用者の誕生日は、ご本人の意向や希望に沿った企画は行えており、ご利用者に喜んでもらったことが多かった。
- ・体操レクを毎日行うことで、ご利用者から「今日は体操ないの？」と言われることがあり、職員以上にご利用者の意識づけができていたのが良かった。
- ・フロア企画での外出が少なかった。
- ・日々の業務に追われてしまい、自分に余裕がなくご利用者と話す時間を作れていなかった。

【不適切ケアをしない】

- ・「今はできません」「待ってて」とスピーチロックをしてしまいうまく対応ができなかった。
- ・大きな事故(骨折)につながるケアをしてしまい、ご利用者を安心安全にさせることができなかった。
- ・情報共有は行っていたが、他職種への連携が遅れてしまい、対応が遅れてしまい後手後手になった。

III. チーム目標

- ・ご利用者への対話や介助などの場面で、相手のことを思い気持ちに寄り添うことで、「その人らしさ」を引き出し、ユマニチュードを実践していくことでケアの幅が広がったように感じた。
- ・業務は互いにフォローしあうことが少なく、困っている際に職員同士での声掛けが少なく、個々で動いてしまい連携が図れておらず、孤立感を感じる場面が多く見られた。

来年度への反省点

I. 介護理念『相手に寄り添い、温かい気持ちで接し、1つでも多くの笑顔を引き出す』

- ・担当利用者だけでなく、担当以外のご利用者の笑顔も引き出せるようケアの質を上げていく。
- ・ご利用者に寄り添えるケアをみんなで考えていき、会議などで研修を行い、介護ケアに対する知識をより深められるようにしていく。

II. ケアの項目

【尊厳を守る】

- ・職員同士で話す際には、周りに配慮するよう心掛けてもらい、他の職員はその場面を見た時には注意するよう意識づけてもらう。
- ・看取りケア時は、「その人らしさ」を知ってもらうよう、昔の生活や趣味などがわかるシートを作り、終末期ケアをチーム全体で統一ケアできるようにする。

【生活にゆとりと楽しみを】

- ・天候に左右された外出企画で中止になったものもあるので、雨天時でも外出で気分転換が図れるように代替案の企画も提出してもらう。
- ・誕生日企画は、担当利用者の想いに沿った企画を行い、誕生日を喜んでもらえるように努める。
- ・業務の流れを見直し、職員がご利用者と過ごす時間を作れるようにする。

【不適切ケアをしない】

- ・すぐに対応できないケアの際には、同フロアの職員か他職種の職員に声を掛け対応をしてもらうなど、柔軟な対応をとってもらう。
- ・事故を未然に防ぐ為に、介助を行う前の声掛けや準備をしっかり行い、ご利用者、職員ともに安心安全な環境を作る。
- ・情報共有は他職種にも伝えるべきことなので、フロア間だけでなく他職種にも早急に伝えるよう対応を怠らない。

III. チーム目標

- ・ユマニチュードを毎年のように目標で立てていくことで、意識が少しずつ付いてきているのでより良いケアに繋がっていけるよう、会議などで定期的に学びの場を増やし、より意識付けができるようにしていく。
- ・職員同士のコミュニケーションをもっと密にとり、周りの状況を把握しながら連携を図っていけるチームケアを目指していく。

3丁目 令和7年度 事業計画

『実績』

I. 介護理念 【 笑顔 ～ハートフルなケアの実践～ 】

- ・各居室担当者を中心に介護計画書の作成は行えた。
- ・事故発生リスクの高いご利用者様の人数より職員数が少なく、職員に余裕がない場面が多くあった。転倒事故もあり、骨折してしまった事例もあった。
- ・ケアの評価・見直しや再検討（PDCA サイクルの活用）が行えているにもかかわらず、その結果が介護計画書に反映できていない事が課題として残った。

II. ケアの重点項目

【 余暇活動の充実 】

- ・面会時や企画・イベント時に積極的にご家族様とコミュニケーションを取る事で、ご利用者様の好みや趣味嗜好を把握、個々に合わせた企画の実施が行う事ができた。一方でご家族様からの聞き取りが叶わない方も多く入所されており、職員が普段のコミュニケーションから探ることしかできなかった。
- ・先述した通り、職員に余裕がなく毎日のレクリエーションや余暇活動の提供が簡易的になってしまっていた。毎月の企画イベントは出勤日を調整したり、日時を変更するなど工夫して行う事ができていた。

【 環境整備 】

- ・家具の持ち込みが進まず、慣れ親しんだ家具を使用して頂くことが叶わなかったが、各居室担当が工夫を凝らして現在の生活環境に慣れて頂く事ができた。認知症を有していても自室の場所・自身の寝床の把握が行えていた。
- ・V カメラを導入、ご利用者様が安全に生活できる環境作りを行えた。
夜勤職員の負担軽減にもつながった。
- ・2月からの工事により居室内・ホール・浴室・トイレの環境整備が行えた。
工期中の移動に混乱をされているご利用者様も数名いらしたが、職員の話術やベッド配置の工夫などでご利用者様の生活環境を整えることができていた。
- ・施設内にあるテーブルや椅子を活用、機能訓練指導員と個々にあったテーブルと椅子を選定することができた。ご利用者様の安全に配慮し、可能な限り車椅子から椅子への移乗を行っていた。
車椅子は移動の手段であることを介護職員全員が理解してご利用者様の QOL 向上の為、移乗介助を実施していた。

【 食の充実 】

- ・旬の食材を企画に用いることで季節感を味わっていただくことができていた。ご利用者様と一緒に調理を行う事で食の充実が行えた。
- ・中庭の整備は行えなかったが、プランターを使用してご利用者様と一緒にを行う家庭菜園にも着手出来たことは良かったが、途中から手入れが行き届かない状態になってしまい作物は実らず、収穫は行えなかったので残念な結果になってしまった。

Ⅲ. チーム目標

- ご利用者様から日々学び、職員一人ひとりが自己研鑽に努めケアの質向上を図ります。
 - ・リーダーを中心にご利用者様のケア向上に努めていた。
特に対応に苦慮した事例のご利用者様（頭部打撲後の認知症）への対応をチームで話し合い、日々本人様から学び、試行錯誤を繰り返してケアの質向上に努められた。
- 各種書類の IT 化を図ると共に ICT を積極的に導入「ムリ」「ムダ」「ムラ」を無くし生産性向上に努めます。
 - ・昨年までは無かった IT 機器を導入・活用することで生産性向上が図れた。IT 機器に弱い職員も積極的に使用していた。若手職員がベテラン職員に IT の使い方を教える姿も見受けられた。
- 感染症対策として「持たず」「作らず」「持ち込ませず」を徹底します。
 - ・今年度感染症は流行しなかった。

令和 7 年度事業報告書

グリーンヒル上高野 医務課

【新規入所】 35 名

【退所】 32 名

{	看取り 13 名	長期入院 9 名
	入院中の他界 7 名	老衰 2 名
	他施設入所 1 名	

【ドクターメイト】

R7 年 5 月からドクターメイトオンコールが導入され適切なアドバイスが頂け医務も介護側も対応し易くなりました。又、ドクターメイト精神医療指導の相談も開始され問題解決の糸口として少しずつ相談件数が増えて活用できています。

【感染症対策】

職員、ご家族の基本的感染症対策により感染症のクラスターもなく年越しができました。今年度も健康観察を行い感染予防に努めて行きたいと思います。

医務室は近年、人手不足が深刻化していますが多職種と連携を取りご利用者が安全、安楽に生活が送れるように努めていきます。

令和7年度 管理部栄養課 事業実績報告

- 栄養課の理念
- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
 - ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

令和8年度 利用者食事摂取推奨量 (2025年度版、日本人の食事摂取基準に準拠)	令和8年度 グリーンヒル利用者供与計画				令和8年度 グリーンヒル八千代台利用者供与計画			
		男性	女性	平均		男性	女性	平均
	入所者	26 名	70 名		入所者	7 名	20 名	
	年齢	85.5 歳	88.4 歳	86.9 歳	年齢	88.6 歳	90.6 歳	
	介護度	3.9	3.9	3.9	介護度	4.4	4.2	4.3
令和7年4月～令和8年3月 利用者の実態報告	GH 令和8年 4月1日 現在				GH八千代台 令和8年 4月1日 現在			
	エネルギー	1660Kcal			エネルギー	1694Kcal		
	蛋白質	66.4g			蛋白質	63.5g		
令和7年度 利用者の実態報告	令和7年度 グリーンヒル入所者実績				令和7年度 グリーンヒル八千代台			
		男性	女性	平均		男性	女性	平均
	入所者	28 名	74 名		入所者	6 名	21 名	
	年齢	80.6 歳	88.8 歳	84.7 歳	年齢	88.5 歳	90.3 歳	89.4 歳
	介護度	3.9	3.9	3.9	介護度	4.3	4.3	4.3
令和6年、令和7年における 食数実績・目標数	食数実績	グリーンヒル		合計	グリーンヒル八千代台		合計	グリーンヒル 特養・通所 グリーンヒル 八千代台特 養・小規模多 機能 総合計食数
	令和7年度	利用者	123454 食	131514 食	利用者	53530 食	59343 食	
		職員	8060 食		職員	5813 食		190857 食
	令和6年度	利用者	128492 食	136250 食	利用者	55771 食	61516 食	197766 食
		職員	7758 食		職員	5745 食		
フードサービス形態 クックチル A セントラルキッチン	給食業務完全委託方式 A グリーンヒル特養・通所 グリーンヒル八千代台特養 B 給食業務直営方式 グリーンヒル八千代台・小規模多機能				A方式の帳票類は別途区分管理とする ・災害時発生時、食中毒・感染症発生時、グリーンヒル・グリーンヒル八千代台に 属するマニュアルに準拠するように業務契約(BCP対策)を締結した ・大量調理施設マニュアルに準じる ・食品衛生法の衛生安全管理の維持徹底(HACCP方式導入 R3.6月) ・特別な個別膳(ミキサー食)(やわらぎ膳 有料)看取り膳 ・保存食・公衆衛生の実施(厨房内消毒4回/年・グリストラフ 1回/年) ・院外調理(ひまわり)→小規模施設(サテライトキッチン) 配膳・調理従事者の衛生管理(細菌検査 18回/年) ・備蓄食品(非常用食品)の保管・資料 献立表策定している ・特定給食施設栄養管理(グリーンヒル)・給食施設栄養管理(グリーンヒル八千代台) 巡回指導実施 千葉県習志野福祉センター グリーンヒル 実施なし グリーンヒル八千代台実施なし 感染症対策マニュアル策定 BCP R3.3月 ・敬老会祝い膳 グリーンヒル 利用者 特養 108食 通所 56食 職員 48食 家族53食 グリーンヒル八千代台 利用者41食 職員22食 家族・来賓30食			
非常用食品の確保	・災害対策マニュアル策定 ・天災害時の調理を必要としない 備蓄食品				グリーンヒル 定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 12回/年 グリーンヒル八千代台 日時不定期 1回/月			
行事食	・施設諸行事に伴う食事支援				①栄養マネジメント強化加算(管理栄養士体制整備 GH3名 GH/2名) ・LIFEデータ→厚生労働省提出 GH 4月、7月、10月、1月(要件に準ずる3か月送信) GH/ハ 毎月(情報提供任意) ・IT化ブルーオーシャン情報共有 ・生活と身体状況記録(介護・看護・栄養記録) 内容 身体計測、摂取目標量、摂取状況調査項目 栄養アセスメント・栄養ケア計画書(施設版) *食事調査表は利用者の共有個別資料とする。 (但し、持ち出し禁止、厳守) ②低栄養リスクの改善として、栄養計画による ・食事・栄養管理、評価判定を行う。 ・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品を推奨する (但し、個別管理品は個人負担とする) ONS栄養強化 GH9名 GH/80名(個人購入) ※ONS:経口的栄養補助食品 ③看取り(EOL食 I、II、III期)実施			
会議	栄養委員会 ・給食会議 ・NCM会議(低栄養者及びケアプラン委員会と)				④利用者全員の看護、介護、栄養の情報伝達の生活向上委員会などに参加出席した ・NCMスタディ(管理栄養士5名)随時開催(給食・栄養管理の専門性向上目的) 内容:症例検討・栄養情報書作成 ・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 GH指摘事項なし ・給食経営管理部門としてクックチル方式全面委託化 業務委託、食材料費委託 及び院外調理(ひまわり)を導入した小規模多機能クックサーブ方式 ・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、分離区分を共有化した ※CK=セントラルキッチン SK=サテライトキッチン			
栄養ケア・マネジメント 栄養管理	基本方針 I. 栄養ケアマネジメント 全利用者実施 4回/年スクリーニング実施 II. 経口維持実施 経口移行 I、II (医師・歯科医師による評価者) III. LIFE厚生労働省へ送信 科学的介護情報システム(LIFE) 栄養マネジメント強化加算				⑤グリーンヒル 8:30～17:30(2名)9:30～16:30(1名) ・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30 9:30～18:30(勤務体制) (ふらっとホーム開催日1回/週) “食&栄養”おいしいお知らせ 4回/年発行			
令和7年度の報告及び考課	①教育研修計画 ・栄養ケアシステムの向上 ②高齢者施設監査 ③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル 八千代台(SK)の給食はデリバリー方式、 グリーンヒル八千代台 ・調理チーム結成(小規模多機能 サテ ライト グリーンヒル八千代台南デイベ ーム)(R4.5) 方式(CK)(SK)との業務は分離独自型 供食対象:利用者食・職員食 ・グリーンヒル南デイベーム グリーンヒルから グリーンヒル八千代台へ 移管 ④施設管理栄養士のシフト体制 ⑤給食栄養利用者向け広報誌発行				以上			

令和 7 年度 事業報告

グリーンヒル指定居宅介護支援事業所

令和 8 年 3 月稼働件数

・計画作成数・・・給付管理件数 66 名（令和 8 年 3 月請求分）

総合事業委託請求件数 8 名（令和 8 年 3 月請求分）

―総 括―

令和 7 年度は職員の療養が多く、グリーンヒル八千代台と合併するなど、いろいろご迷惑をおかけした 1 年となってしまいました。私事ではございますが、令和 8 年 2 月から復職でき、3 月よりグリーンヒル居宅介護支援事業所の再開に至っております。職員が重い疾病を抱えながらもあるため、令和 8 年度の目標も低く見積もらざる負えない状況です。

次世代を担える新しい人材の確保をお願いします。また現在、在籍しているケアマネがより意欲を持って仕事に取り込めるよう研修機会の確保や環境を整えることは当然として、新たな人材が確保できた時にも、定着できるようバックアップをより強化していきたいと思えます。

令和7年度事業報告

グリーンヒル通所介護

令和7年度利用状況（本体通所介護）

今年度は、一日の平均利用者数 20 名、利用者登録数 50 名を目標に、サービスを提供してきましたが、年間を通しての一日利用者の平均としては 12.7 名年間の延べ利用者数は 4,000 人で前年度より大幅な減少となってしまった。一年間での新規利用者数は、9 名程で新規利用者の獲得が厳しい現状の中で、利用中止者の人数が 18 名となってしまい、登録数が大幅に減ってしまい、一年通して厳しい状況で赤字の決済となってしまった。このような状況に、来年度に向けて、人件費の削減など経費削減を行う。また、今後の新規利用者獲得に向け広報活動を積極的に行っていきたいと考えています。

令和7年度年間実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
登録人数	43	41	37	36	37	37	36	37	36	33	33	34	440.0	36.7
利用者数	38	38	35	34	36	35	34	35	34	31	33	33	416.0	34.7
新規利用者	1	0	0	0	3	0	3	1	0	0	1	0	9.0	0.8
登録中止利用者数	1	2	4	1	2	1	1	1	1	2	1	0	17.0	1.4
運営日	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26	309.0	25.8
延べ人数	403	407	350	332	325	352	319	295	325	255	276	308	3,947.0	328.9
総合事業人数	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	4	4	31.0	2.6
													0.0	0.0
要介護人数	36	36	33	32	34	33	32	32	31	28	29	29	385.0	32.1
合計	38	38	35	34	36	35	34	35	34	31	33	33	416.0	34.7
平均介護度	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.4	2.4	2.2	2.2	2.2		2.4
1日平均利用者数(予算26人)	15.5	15.1	14.0	12.3	12.5	13.5	11.8	11.8	12.5	10.6	11.5	11.8		12.7
前年平均利用者数	21.9	21.4	20.4	20.3	19.2	20.6	19.4	17.7	18.3	17.1	15.8	16.0		17.7

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14	
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	17	
要介護1	9	8	8	7	8	7	8	8	7	7	7	7	91	
要介護2	9	11	9	8	8	8	7	7	9	9	9	9	103	
要介護3	13	13	12	13	14	13	12	12	11	8	9	10	140	
要介護4	1	1	2	2	2	3	2	2	1	1	1	1	19	
要介護5	4	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2	31	
人数	38	38	35	34	36	35	34	35	34	31	33	33	416	

【令和7年度 事業報告】

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台

短期入所生活介護 グリーンヒル八千代台

1. 目標稼働・目標施策（令和7年度）の達成状況（○数字はR7事業計画の原文）

○稼働率（長期＋短期）：長期入所者の安定稼働（入院者低減・空床期間短縮）

・年間稼働率 99.75%目標（長期+短期：39床に対し 38.89名以上の稼働）

⇒【未達】月平均 38.85名（年間稼働率 99.6%）※令和6年度稼働：99.6%

○現算定加算（特養・短期）の算定継続

⇒【達成】現行加算の全てにおいて算定を継続。

○Hug・走行式リフト等の移乗機器を活用することで生産性の向上を図る

⇒【達成】移乗機器使用の効果を共有し、係わる職員が方法を理解。各年代の職員が幅広く活用、身体的理由（腰痛等）での欠勤や早退報告なく年度を終了し、負担軽減・腰痛予防に繋がる結果となった。

○見守りカメラ・インカム等を活用することで生産性の向上を図る

⇒【未達】事業所管轄内の事故（転倒・転落）報告件数が昨年度を上回る結果で報告された。ご利用者居室内へ必要のない訪室頻度が減り、職員の負担軽減には改善が見受けられたものの、事故件数自体は増加。背景にはご利用者の特徴に合わせた適切な機器選定、対応優先順位の見誤り等が可能性として挙げられる。今後においては、正確なご利用者状態像の把握、事故検証委員会を中心とした再発防止具体策の検討と発信に取り組むことが重要となる。

2. 今年度の実績（反省）

①稼働率（長期＋短期）の維持

・利用者の健康管理（検温・誤嚥性肺炎や尿路感染症予防等）また ADL の維持に対し、各専門職が協働することで前年度と比較しての入院者は3分の1減少。今後も稼働率の維持・向上を目指し、過去の傾向から入院者の出現時期を予め予測し、突発的な入院に柔軟に対応できるよう日頃より利用相談（希望）を丁寧に収集し、待機者への声かけを迅速に行うことについて意識を維持していく。

②情報共有ツールの定着

・LINEWORKS を用いての情報共有方法が定着（既存の連絡帳を廃止）。施設内の状況、ご利用者に関する申し送り内容が個人の携帯電話で確認することができ、事に加え施設外からの発信も可能となることで、記録忘れの低減に繋げることができている。個人情報取り扱いについて、注意点を念頭に置いた上で更なる浸透を目指す。

③地域活動・地域貢献・地域連携

・ふらっとホームの継続、地域活動サークルまた近隣教育機関への専門職派遣等、住民との交流機会を維持し、活動の場が年々増加傾向にある状況。

地域住民との合同防災訓練＋BCP 訓練（毎年9月実施）も定着化、防災倉庫や非常用給水栓等、新設した非常用備品を随時紹介、業務継続に必要とされる事項、福祉避難所として求められる役割と併せて共有を図ることができた。

3. 令和7年度 特養・短期の実績

令和7年度 グリーンヒル八千代台 特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
月末利用登録者	28	27	28	28	27	28	28	27	27	27	27	27	329	27.4
入所延日数	813	846	838	886	842	840	878	810	837	821	785	834	10,030	835.8
入院延日数	0	0	0	0	6	30	32	0	9	2	0	0	79	6.6
利用実日数	813	846	838	886	836	810	846	810	828	819	785	834	9,951	829.3
1日平均利用者数	27.1	27.3	27.9	28.6	27.0	27.0	27.3	27.0	26.7	26.4	28.0	26.9		27.3
平均介護度	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3		4.3
(介護度4・5割合)70%	89.3%	89.1%	89.3%	89.3%	88.9%	89.3%	89.3%	88.9%	88.9%	88.9%	88.9%	88.9%		89.1%
新規入所者数	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	2	1	9	0.8
(内介護度4以上)	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	7	0.6
(内認知度Ⅲ以上)	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0.0
退所者数	0	1	0	1	1	0	2	0	0	1	2	1	9	0.8
負担限度額認定者	5	5	6	6	5	5	5	4	4	3	4	3	55	4.6
短期請求件数	31	36	29	26	28	26	31	29	26	27	27	26	342	28.5
短期入所延日数	357	364	333	323	368	312	365	361	383	391	307	365	4,229	352.4
特養・短期合計延日数	1,170	1,210	1,171	1,209	1,204	1,122	1,211	1,171	1,211	1,210	1,092	1,199	14,180	1,181.7
特養・短期1日平均数	39.0	39.0	39.0	39.0	38.8	37.4	39.1	39.0	39.1	39.0	39.0	38.7		38.8
稼働率	100.0%	100.1%	100.1%	100.0%	99.6%	95.9%	100.2%	100.1%	100.2%	100.1%	100.0%	99.2%		99.6%
前年度稼働率	100.2%	98.6%	98.4%	100.1%	100.4%	100.1%	100.2%	100.1%	97.6%	100.0%	100.1%	100.0%		91.3%
前年度との比較	-0.2%	1.5%	1.7%	-0.1%	-0.8%	-4.2%	0.0%	0.0%	2.6%	0.1%	-0.1%	-0.8%		0.0%
介護福祉士取得(非常勤含む)	18名	18名	18名	18名	19名	18名	21名	21名	21名	21名	19名	19名		

以上

令和7年度2階 つつじ・ばらユニット 介護理念振り返り【心を寄せる】

○ 調査概要

- 対象：2階 つつじ・ばらユニット職員（介護職員）
- 回答数：10名
- 方法：選択式アンケート（出来た／出来なかった）

○ 結果概要

（1）全体達成度

全体の平均達成度は78%であり、理念の実践は概ね良好であるが、一部に改善を要する項目が認められた。

【全体達成度（回答数10名）】

ご利用者に寄り添う		100%	（10名中10名）
ご利用者の心に寄り添う		90%	（10名中9名）
ご利用者の生活に寄り添う		70%	（10名中7名）
ご利用者のご家族に寄り添う		40%	（10名中4名）
チーム目標		90%	（10名中9名）

（2）項目別達成状況

① ご利用者に寄り添う（100%） 100%

全職員が達成しており、利用者本位のケアが高い水準で実践されている。

② ご利用者の心に寄り添う（90%） 90

ユマニチュードの実践や適切なコミュニケーションが概ね実施されている。

③ ご利用者の生活に寄り添う（70%） 70%

個別ケアへの取り組みは見られるが、生活歴の把握や環境支援に課題が残る。

④ ご利用者のご家族に寄り添う（40%） 40%

最も低い達成率であり、家族との関係構築において改善の必要性が高い。

⑤ チーム目標 (90%) ■■■■■■■■■■□ 90%

多職種連携および ICT 活用により、情報共有は良好に行われている。

4. 成果（評価できる点）

- (1) 利用者への寄り添いの徹底
ご利用者の意思や希望を尊重したケアに係る職員全体的に実践されている。
- (2) ケアの質の向上
ユマニチュードの浸透により、ご利用者に対し、安心感のあるケアが提供されている。
- (3) チーム連携の強化
多職種間の連携および ICT 活用（LINEWORKS 等）により、情報共有の効率化が図られている。

5. 今後の課題

- (1) 家族支援の不足
家族とのコミュニケーション機会が限定的であり、情報共有にばらつきが見られる。
- (2) 個別ケアを実践する上での情報不足
ご利用者の生活歴や個別ニーズの把握が不十分な場面があり、ケアの質に影響している。
- (3) 業務環境の影響
人員体制や業務負担により、十分なケア時間の確保が困難な状況が見受けられる。

6. 分析

本結果から、理念に基づく「寄り添い」の意識は職員間で十分に共有されていることが確認された。一方で、その実践は主に利用者本人への直接的な関わりに偏っており、家族対応や環境整備といった周辺領域においては十分とは言えない。また、チームとしての連携体制は整備されているものの、個別ケアのさらなる深化に向けた取り組みが必要である。

7. 今後の方向性

(1) 家族支援の強化

面会時の積極的な声かけおよび日常の情報提供の仕組み化を図る。また利用者居室担当者が軸となり、担当者からの随時発信、ユニット会議内での擦り合わせと周知徹底を図る必要がある。ご家族に対する積極的な声掛けや意見収集に努めることが重要と捉える（コミュニケーションに苦手意識を持たない）。

(2) 個別ケアの充実

生活歴の把握および共有を徹底し、「その人らしさ」に基づくケアの実践を推進する。ご利用者（ご家族）に対するアセスメントやモニタリングについてもご利用者ごとに個別性を持たせることが重要と捉える。

(3) 環境支援の推進

PEAP等の視点を再度意識し、ご利用者の過ごされる生活環境の整備を強化する必要があると捉える。

(4) 業務改善

ICTの活用および業務効率化を深め、ケアに充てる時間の確保を図る。置かれている状況に対する業務の見直しや役割分担について随時協議する必要があると捉える。

8. 総括

本年度は、ご利用者への寄り添いおよびチーム連携において一定の成果が認められた。一方で、家族支援および個別ケアに深みを持たせる取り組みについては明確な課題が残る結果となっている。今後は、残される課題と今後の方向性を結び付けた上での重点的な取り組みを実施し、現在より質の高いケアの実現を目指す。

以上

令和7年度3階 梨の花・新川ユニット 介護理念振り返り

【 温もりある生活 】

○ 調査概要

- ・ 対象：3階 梨の花・新川ユニット職員（介護職員）
- ・ 回答数：9名
- ・ 方法：選択式アンケート（出来た／出来なかった）

○ 結果概要

（1）全体達成度

全体の平均達成率は約 65%であり、基本的なケアやコミュニケーションは概ね実施できていた。特に、ご利用者への関わりやイベント企画、情報共有については職員個々の高い意識が見られた。一方で、業務に余裕を持つての落ち着いた対応や、個別性の高い支援・細かな環境整備については課題が残る結果となった。

【全体達成度（回答数9名）】

温もりのある生活環境	 61%
温もりのあるケア・コミュニケーション	 74%
温もりのある生活	 62%

（2）項目別達成状況

○ 温もりのある生活環境（達成率 61%）

- ・ ご利用者の居室の設え  56%
- ・ ご利用者の身だしなみ  78%
- ・ ユニット内共有環境の清掃  78%
- ・ ご利用者居室内の清掃  33%

【成果】

- ・ ご家族との関わりを通じてご利用者の生活背景を理解できた。
- ・ ご利用者に合わせた衣類の選択や環境整備が出来た。
- ・ ユニット内の共有スペースにおいて食後の清掃など基本ケアが行えていた。

【課題】

- ・ 日常業務に手一杯な現状もあり、細かな環境整備まで手が回らない。
- ・ 各居室担当ご利用者以外への関わりが不足している。
- ・ ご利用者の居室内環境において、タンス内整理や細部への配慮が不十分。

【分析】

基本的な清潔保持や生活支援は概ね実施できていたが、ご利用者一人ひとりの個別性を意識した環境づくりには課題が見られた。

○ 温もりのあるケア・コミュニケーション（達成率 74%）

- ・ご利用者との関わり  89%
- ・ご利用者への統一ケア  67%
- ・ご利用者への言葉選び  67%

【成果】

- ・ご利用者の日常へ寄り添う関わりを意識し実践できた。
- ・企画、面会時等の関わりからご利用者ご家族との関係が構築できた。
- ・基本的な声掛けや対応が浸透し始めた。

【課題】

- ・業務集中時（身体介助等）のご利用者対応（要望確認等）が後手に回る。
- ・ご利用者へのケア内容（質）に職員間での差が生まれている。
- ・職員間での情報共有が未だ不足している点がある。

【分析】

ご利用者への関わりに対する意識は高く、基本ケアも実施できていた。しかし、時間的余裕の不足や職員間連携のばらつきにより、安定した温かいケアの提供に課題が残った。

○ 温もりのある生活（達成率 62%）

- ・楽しみの実現  89%
- ・クラブへの参加  67%
- ・介護計画への反映  25%

【成果】

- ・毎月のイベントや季節に応じた外出企画を定期的に行うことができた。
- ・ご利用者の誕生日会や食事会の企画を行うことができた。
- ・ご利用者の笑顔や満足感につながる活動を計画することができた。

【課題】

- ・ご利用者の趣味や希望の把握が不足している部分がある。
- ・ご利用者の個別性において日常生活への反映が不足している部分がある。
- ・24 時間シートやケア（介護）計画への反映が不足している部分がある。

【分析】

イベントなど非日常の楽しみは提供できているが、ご利用者の日常生活内の楽しみや個別性の反映には課題が見られた。

○ チーム目標

- ・情報共有  100%
- ・事故防止・ICT 活用  89%
- ・職員間コミュニケーション  67%

【成果】

- ・情報共有においては、情報共有ツール（LINEWORKS・ブルーオーシャン等）を活用し日々の業務連絡を共有。職員同士での声掛けを重ねることで情報の周知に繋げることができた。周知した内容はユニット会議等で再度擦り合わせることを行った。
- ・事故防止においては、ヒヤリハット報告書の確認習慣、ご利用者の特徴に合わせた離床センサー機器の選定と使用優先順位を明確にすることを意識し、事故の未然防止に努めた。
- ・職員間コミュニケーションにおいては、相談し合える関係性を意識し、積極的に声を掛け合う事を意識した。会議内での発言も次第に多くなり、不明点のない状態で業務が行えるよう互いに配慮することができた。

【課題】

- ・情報共有ツールの定着に向けては、過去以上に情報量も増えたため、確認漏れも現存している。情報収集の精度を高める必要が十分にある状況。
- ・離床センサー機器については居室内への配置のみとなっており、ユニット内リビング等においては職員の見守りや状況把握が継続して必要とされているため、職員個々の注意力や観察力を向上させる必要がある。
- ・特に新規職員や若手職員を中心に、一度聞いた話を改めて聞き直せない雰囲気とならぬよう、ユニット職員全体の共通理解を深め続ける必要がある。

【分析】

情報共有ツール活用による情報発信の簡易化が進む一方で、情報量の増加による確認漏れのリスクもうかがえた。センサー機器を使用した事故防止の点においては、今後「機器＋人」の連携強化が必要と捉える。職員間コミュニケーションにおいても、状況（余裕のある時間と無い時間）に応じた互いの心理的配慮に目を向けることが必要と考えられる。

○ 今後の方向性

- ・短時間でも出来る個別支援の工夫をチームとして協議していく。
- ・情報共有方法（内容）の整理を他階の職員と協議していく。
- ・引き続きケア内容の統一強化に働きかけを行う。
- ・職員間での相談しやすい職場づくりを深めていく。
- ・介護の質を保つための業務内容の見直しや役割分担を協議していく。

○ 総括

3階職員全体として、ご利用者への関わり方やご利用者の安全管理への意識が高まり、チームとして協力しながら業務に取り組むことができていた。今後は、ご利用者への個別性の高いケア、またどのような状況においても質を保ちながら安定したケアを提供できる体制づくりを進めることで、より温もりのあるケアの実現を目指す。

以上

令和 7 年度 グリーンヒル八千代台医務課 事業報告

グリーンヒル八千代台 医務課

【年間経過について】

今年度は新規入所者が 9 名、退所者 9 名。退所者の内訳として、看取りで逝去された方が 6 名、病院にて逝去された方が 1 名、その他の理由で退所された方が 2 名、入院者数はのべ 6 名だった。

看取り期に移行する際には看取りケアの充実させるため、ご本人・ご家族ができるだけご満足頂けるよう「その人らしく」を目指し他職種と協働、その時を見極め、事前にご家族と話し合う機会を設けることで計画に沿ったケアを行うことができた。

【皮膚トラブルから施設看取り（家族総意）に至った事例について】

昨年度に引き続き動脈性血行不良による難治性潰瘍形成多発したケースについては、R7 年 3 月に消化管出血にて入院したが、嚥下困難にて終末期を GHY 希望にて ENT。ご自身の機嫌により暴言暴力が多発される性質があり、嗜好により嚥下機能に合ったお食事を摂取出来ず、ご家族と協議の上咽てしまっても、状況に応じてご自身のお好みのお食事を提供する、栄養としての喫食ではなくお楽しみとしての喫食と考え、その先に看取りを見据えての対応を決定。栄養課の協力にて熱望のパンをフレンチトーストにすることと、牛乳やエンシュア H を見守りながら摂取して頂いた。咽がある際は途中で中止し、意向をその都度ユニット担当者が伺い対応することで、経口摂取が続けられた。難治性潰瘍については、栄養状態が安定しなくなり ベッド上で同一体位が好まれるため、左上肢・臀部にも潰瘍が出来てしまったが、改善傾向がみられた。R8 年 2 月 19 日お看取りの数日前までご家族提供にてお好きな乳製品を召し上がるなど、ご家族やご自身が好まれる介護を実施でき看取る事ができた。

【終末期対応】

6 名のお看取りの方々は各々の個性を生かした看取り対応をご家族や他職種と共に対応した。尊厳死協会へ入会の方は数年前から内服は臨時的な排便調整のみ。ご自身が召し上げられる範囲での喫食で介護継続、ご家族に寄り添われながら穏やかに逝去された事例。ご自身の判断・意思疎通が最期まで実施可能な方は、ある時ご自身での内服薬を辞退され、嘱託医へ相談し臨時的な排便調整のみの内服薬へ変更。食事や水分摂取はご自身が召し上がりたいもの、召し上がりたい時へとシフト変更し、栄養科の協力にてご自身が望まれるうどんを少量ずつ提供できるように準備。希望の炭酸の飲み物をそれぞれ随時提供。疎遠だったご家族とは他職種連携での判断、相談員からご家族の心境を察しながらの情報共有にて最期の数時間前にご本人と会話できる状況にての面会実現し旅立たれた事例。最期までご本人様の食欲をご家族が信じて反射での嚥下に望みをかけ誤嚥の危険が伴う中での経口提供を希望され、そのご家族の思いに寄り添いつつ、吸引の苦痛についての説明を繰り返しながら毎日面会に来られ、経口介助をされるご家族とご本人様を見守り看取り期を過ごし、家族に見守られながら逝去された事例があった。

【内服薬の整理】

内服の副作用・与薬介助のリスクがあり与薬介助はその人夫々の特性に合わせた高度の技術が必要となる為、服薬回数の削減・服薬内容の見直しを嘱託医・薬局の協力のもと実施、内服内容・回数を出来るだけシンプルにした。

【感染症への取り組み】

3 月に施設内ご利用者間 3 名での COVID-19 の感染があり、1 ユニットを閉鎖し対応しました。他職種連携し即座に感染対策実施したため 複数ユニットでの感染は無かった。

面会は健康観察の上で居室内での15分間を目安に継続実施中(3月 COVID-19 感染者閉鎖中は面会中止)。看護理念として掲げている様に「ご利用者がその人らしく生活」できる為に ご家族との関わりをご本人が取れる様に援助し、情報提供と収集・意思決定をお願いし、その状況に応じた計画・具体策を委員会へ反映させ、他職種との協働・安全安心な看護・介護の提供にて理念実現を目指した。

資 料

第1表 入院者数の推移(前年度比)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
R6年度	1	1	1	1	0	1	0	0	1	2	0	1	9	242	2	
R7年度	入院	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	5	79	1	
	長期入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1			

第2表 令和7年度入院者・退所者(内訳)一覧

【グリーンヒル八千代台 入院者一覧】

	入居者氏名	入院日	退院・(死亡)日	病 院	入院診断名	備 考
1	A	R7.8.15	R7.8.19	セントHP	消化管出血疑い	退院
2	B	R7.8.25	R7.8.29	セントHP	脱水	退院
3	C	R7.9.16	R7.10.2	セントHP	肺炎	退院
4	D	R7.9.17	R7.9.26	済生会習志野HP	肺炎・心筋梗塞	退院
5	E	R7.9.22	R7.10.31	セントHP	肺炎・脱水	療養型病棟(退所)
6	F	R7.12.22	R8.1.2	セントHP	上行結腸癌	死亡退所

【グリーンヒル八千代台退所者一覧】

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他: 本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31
H28年度	4	1	2	0	0	7	H28.4.1	～	H29.3.31
H29年度	4	1	0	0	0	5	H29.4.1	～	H30.3.31
H30年度	1	0	1	1	2	5	H30.4.1	～	H31.3.31
R1年度	2	2	0	0	0	4	H31.4.1	～	R2.3.31
R2年度	2	1	1	0	0	4	R2.4.1	～	R3.3.31
R3年度	3	1	1	0	0	5	R3.4.1	～	R4.3.31
R4年度	6	1	1	0	0	8	R4.4.1	～	R5.3.31
R5年度	5	1	2	0	0	8	R5.4.1	～	R6.3.31
R6年度	3	2	0	0	2	7	R6.4.1	～	R7.3.31
R7年度	6	1	1	0	1	9	R7.4.1	～	R8.3.31

令和 7 年度事業報告

グリーンヒル八千代台居宅介護支援

1. 稼働件数

令和 7 年 6 月～令和 8 年 2 月(上高野・八千代台合併)

合併時の月平均：要介護給付管理 162.3 件・要支援委託請求 15.7 件

特定事業所加算 2 を算定

2. 令和 7 年度総括

- ・他法人との事例検討会につきまして令和 7 年度は、在宅コーディネート八千代台と合同開催し、その後の支援に生かしました。
- ・毎週 1 回居宅内での会議を行っており、事例の検討と共に各々のスキルアップを図っています。
- ・居宅合併時には、他部署の協力も得ながら業務を遂行いたしました。
- ・令和 8 年 3 月から本来の 2 事業所に分かれた事により、個々のケアマネが持つケースに対しての事業所内の把握度、理解度は深まっています。
- ・ケアマネジャー自身の心身の健康維持について、自助、共助、公助の考え方が必要と強く感じた 1 年でした。
- ・ケアプランデータ連携を導入した事により、現在は保険者を含め全事業所がバタついていますが、今後それぞれの事業所でシステムが整いペーパーレス化、事務負担の軽減に繋がればと思います。

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護 【令和 7 年度 事業報告】

1. 目標 月 29 名の稼働 年間稼働率 98%目標 平均介護度 2.7
平均介護度 2.7(令和 6 年度)→平均介護度 3.0(令和 7 年度)
年間平均登録者 29 名(年間平均稼働率 100%)

- ① 毎日通い… 1 名/29 (3%) 毎日泊まり… 2 名/29 (6%)
毎日通い・泊りの利用者が登録者全体の 9%
② 要介護 1… 4 名/29 (13%)【要介護 1 以下の割合】

毎日通い・泊りの利用者が登録者の 30%以上とにならないようにしていくとともに、具体的な想定数値「通い・泊まり・訪問及び人員配置・平均介護度」等を示していくことでサービス配分を標準化していく必要がある。

人材不足は法人内全体的におこっている状態だが、各事業所間での調整等点と点を結び付けた統括的体制が取れる仕組みづくりが必要で、法人全体で人材確保に取り組む意識を持ち、法人総務を中心とした体制を築くことが急務となっている。

既存の利用者のうち、サービス量が過剰である方を整理し、サービス量の適正化、見直しを行う必要がある。

2. 内容

ボランティアの皆様による催し物が多く、メリハリのある余暇時間の提供が出来ました。そのため職員は、ユマニチュードも使い、ご利用者とのコミュニケーションの時間が増えました。趣味活動や誕生日企画の拡充も行なえています。

また地域の子どもたちの福祉教育や世代間交流も地域の方々の協力体制のもと、ご利用者の皆様に楽しんでいただくことができました。

職員によって能力や考え方のバラつきがあり、能力の高い一部の職員に業務が集中している状態で、職員全体でのマニュアルの周知徹底不足、報告基準の不明確さ、部署間連携の不十分さなど、組織体制の未整備に起因する事態、特に、初期段階での迅速な報告・情報共有が徹底されず、危機管理意識の不足が生じてしまった。

今までの構築したシステムが「意味ないこと、むしろ害であるかもしれない」と考えて、システムを解体し、再構築することが必要である。

小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台
【令和 7 年度 事業報告】

1. 目標 稼働率月 17 名以上の稼働 年間稼働率 95%目標 平均介護度 1.6
平均介護度 1.8(令和 6 年度)→平均介護度 2.0(令和 7 年度)
年間平均登録者 18 名(年間平均稼働率 100%)

- ① 毎日通い… 0名/18(0%) 毎日泊まり… 0名/18(0%)
毎日通い・泊りの利用者が登録者の 0%
② 要支援 1・2・要介護 1 の利用者 7 名/18 (38.9%)【要介護 1 以下の割合】

要支援 1.2・要介護 1 の利用者が 30%未満となるように取り組んでいく必要がある。
人員・人材不足は法人内全体的におこっている状態だが、各事業所間での調整等点と点を結び付けた統括的体制が取る仕組みづくりが必要で、法人全体で人材確保に取り組む意識を持ち、法人総務を中心とした体制を築くことが急務となっている。

既存の利用者のうち、サービス量が過剰である方を整理し、サービス量の適正化、見直しを行う必要性がある。

迅速な報告・情報共有が徹底されず、危機管理意識の不足が生じてしまった。

2. 内容

ご利用者の楽しみとして、希望や状態に合わせて季節の工作や食事、おやつ作りなどの企画や外出を行ったが、ご利用者の状態と職員体制(人員・人材不足)により外出の回数は前年より減少した。

勝田台ステーションギャラリー作品展の開催、ファミリーフェスタや認知症カフェ、地域サークルの作品展に出掛けて地域の方と関わる機会を作る共に、おとなの学校や脳トレ、音楽療法、生活総合機能改善機器を活用しておもしろい、楽しいと感じる活動を提供し、職員も一緒に“楽しい”を共有し笑顔で過ごしていただくことができた。

地域、自治会、地域包括と協働した取り組みとして、認知症カフェ、予防体操教室、環境美化活動、広報誌の発行、防災訓練を実施した。取り組みを通して事業所の存在や職員を知ってもらい、地域に必要とされる拠点であるための関係作りを進めた。

今までの構築したシステムが「意味ないこと、むしろ害であるかもしれない」と考えて、システムを解体し、再構築することが必要である。

【令和7年度 事業報告】
グリーンヒル八千代台 訪問介護

1. 運営状況

南デイホームの方針が、「医療の強化」にかわったことで、当初予定していた連携を行う事が出来ず、おおむね八千代台西での業務継続となりました。加えて南デイホームの人員不足により、ヘルプに入らざるを得ないことも多く、新規利用についてのお問い合わせにはほぼ応じていません。今後も利用者減の傾向となると思われます。

<職員体制・研修について>

- 管理者：1名（兼務）
- サービス提供責任者：2名（1名兼務）
- ヘルパー：6名

研修については、フォローアップ研修に加え、オンデマンド研修に関する情報も積極的に収集し、常勤職員ができるだけ視聴できる環境を整えています。事業所内では参集研修も定期的に実施しており、参加できなかった職員には別日に伝達研修を行って対応しております。また、現場研修としての同行訪問も継続しております。

2. 課題と今後の方針

運営規定、契約書を現在の状況に合わせて変更するところから、今後の運営方針について検討する必要があるとおもわれます。

令和7年度目標値及び実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標人数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
実績人数	34	36	35	32	35	35	34	33	34	32	36	35

令和7年度 グリーンヒル指定訪問介護（サテライト）

事業報告

1. 令和7年度 目標に対しての実施状況

- 1) 訪問介護サービスマニュアル『ハート・トゥ・ハート』に沿ったサービスの提供。
→各々のヘルパーが利用者に対して適切な対応を心掛けており、介護保険の基本理念である自立支援に繋げている。
- 2) ヘルパーとしての介護技術向上を目的とした研修の実施。
→月1回の定例研修にヘルパー全員で参加し、介護技術や虐待防止、感染症対策、個人情報保護等必要な事を学んでいる。
→研修を通して、自身の介護の振り返り時間を作っている。
- 3) 安全な移送サービス、通院等乗降介助の実施。
→この1年安全に移送サービス実施できている。
- 4) BCP 策定に基づき研修及び訓練を行う。
→ビデオ研修を行い、訓練を年1回実施している。

2. 課題と今後の方針

- ① 登録ヘルパーが高齢になってきており、車での移動が難しく、近辺しか受けられない。
- ② 人員が足らず新規ケースは受けられない状況。
- ③ 在宅支援の要であるヘルパー事業が継続できるよう、登録ヘルパーの確保。

3. 令和7年度目標値及び実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標人数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
実績人数	35	32	33	32	32	34	34	31	30	30	28	30

【令和7年度 事業報告】
グリーンヒル八千代台 南デイホーム

1. 運営状況

当初「訪問との連携」という方針から「医療の強化」にかわったことで、看護師の配置がありましたが、2カ月で終了、その後は医療との連携は行われておりません。また相談員の負傷離脱もあり、八千代台特養からの送迎ヘルプ、八千代台訪問からのヘルプをうけないと安全が確保できない状況が続いています。見学希望・新規問い合わせが増えている中、対応に苦慮しています。

2. 課題と今後の方針

今後の方針を検討し、方向性を早急に決める必要があると思われます。

令和7年度目標値及び実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
実績人数	5.4	5.1	5.2	5.2	5.3	5.0	5.0	5.3	5.6	5.0	4.7	4.3

令和8年5月6日

八千代台キッズルーム

グリーンヒル八千代台キッズルーム 令和7年度報告

令和7年度の利用者延べ人数、幼児329名・学童270名でした。

4月 3日（木） ミニ運動会

ソフトボール入れやお菓子取りゲーム、ジャンプをして棒を飛び越え全身を動かしていました。

8月 7日（木） 夏祭り

ヨーヨー釣りやボールすくい等の遊びを楽しみ、ポップコーン・焼きそば・フランクフルトを食べました。

9月15日（月） 敬老会

ご利用者様にプレゼントを渡しました。

10月29日（水） ハロウィーン

仮装をしてご利用者様からお菓子を頂き、喜んでいました。

12月25日（木） クリスマス会

クリスマスペーパーサート鑑賞、プレゼントを頂きました。

12月26日（金） 餅つき

阿武松部屋の力士と写真撮影をしました。

2月 3日（火） 節分

保育士が鬼に変装し、子ども達も鬼のお面をつけて豆まきに参加しました。

3月23日（月） ミニ運動会

輪投げやお菓子取り競争をして、皆で声を出して楽しんでいました。

2025年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	29	29	25	28	29	23	30	30	25	27	22	32	329 名
学童	23	24	6	23	52	22	20	13	39	15	14	19	270 名
合計	52	53	31	51	81	45	50	43	64	42	36	51	599 名

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	40	24	21	23	24	24	24	36	26	50	52	51	395 名
学童	9	26	13	27	41	28	14	23	20	18	20	19	258 名
合計	49	50	34	50	65	52	38	59	46	68	72	70	653 名

以上

令和7年度 ふらっとホームグリーンヒル活動報告

参加者実績

開催月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開催回数（回）			4	3	4	5	4	4	4	4	4	4	3	5	48
参 加 者 （ 人 ）	喫食	大人 300円	190	148	168	210	177	190	192	147	198	160	134	184	2098
		（うちボラ）	19	15	20	29	18	17	10	20	20	23	17	28	236
		（うち施設）	7	3	9	8	8	7	5	7	6	6	6	10	82
		（うち施設 ご利用者）	3	3	2	4	3	3	0	0	1	0	1	0	20
		子ども 100円	177	177	207	254	177	225	211	131	185	156	127	196	2223
		その他 0円	1	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	7
		学生 0円	0	4	0	2	3	1	0	1	1	0	0	0	12
	喫食小計		368	329	375	470	357	416	405	279	384	316	261	380	4340
	未喫食	大人	9	6	9	10	8	8	8	7	8	6	6	10	95
		子ども	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	参加者計		377	335	384	480	365	424	413	286	392	322	267	390	4435
	地域参加者数		367	332	382	476	362	421	413	286	391	322	266	390	4408

※地域参加者数：職員/施設ご利用者を除く参加者

地域参加率	99%
子ども参加率	50%

開催イベント

月	イベント名	対象	内容
4	春のランチ会	学童	アーステクニカ様よりの寄付食材を中心に使用したランチ会。近隣学童の児童を招いて実施。ふらっとホーム周知の為。
8	夏祭り	学童	施設行事の夏祭りに学童の児童手作りの屋台を誘致。児童と共に地域に向けた祭りを盛り上げた。
8	八千代カレーイベント	地域	地域の八千代カレー推進イベントに参加。「がんばるあなたと私を応援」をテーマにふらっとホームオリジナル八千代カレーのアイデア募集、選考、調理、提供までを実施。第1弾「夢見るくまさんカレー」
8	八千代カレーイベント NHK生中継	地域	NHKLIVEニュースーンにて八千代カレーの取材を、カレーのアイデアを提供してくれた子ども達とともに受けた。日頃お世話になっている方々を招き、カレーを無料提供した。
9	八千代カレーイベント	地域	第2弾「体も心もニコニコカレー」
10	八千代カレーイベント	地域	第3弾「元気パワーマンカレー」
10	ハロウィン	学童	近隣の2学童の児童を対象に実施。各学童にてゲームを2種類、お土産にお菓子をプレゼント。
10	ふれあいフェスタ	地域	地域のバザーに参加。ふらっとホーム・クリスマスイベント周知の為。駄菓子を募り販売。
12	クリスマス会	地域	地域のボランティアに依頼し、ロースターキー他クリスマスメニューの調理、提供。新規ボランティアの協力によりロリポップチョコレートのブースの展開。 ご寄付いただいた文房具やお菓子の配布。
12	学童クリスマス会参加	学童	サンタとトナカイに扮した職員が近隣2学童のクリスマスイベントに参加。お菓子をプレゼント。
12	寄付品配布	地域	冬休み期間の食事応援の狙いでご寄付いただいた食品を、ふらっとホーム参加の子どもに配布。
12	餅つき	学童	施設行事の餅つきにふらっとホームより学童を招待。
1	獅子舞	学童	獅子舞に扮した職員が近隣2学童を来訪。新年の健康を祈念した。
2	師分	学童	鬼に扮した職員が近隣2学童を来訪。無病息災を祈念した。寄付で頂戴した本をプレゼント。
2	ロータリー発表	地域	八千代ロータリークラブにてふらっとホームの活動を発表。
3	寄付品配布	学童	春休み期間の食事応援の狙いとしてご寄付いただいた食品を、学童児等に向けて配布。

ご寄付報告

お名前(順不同)	内容	用途
中村 悟 様	米・鶏肉・豚肉・ハンバーグ・ウィンナー・塩鮭・チョコレートケーキ・アイス他	食事、デザート
吉井正信 様	野菜等	食事
朝わくわく広場 様	野菜・果物	食事、配布
朝コーン乳菜 様	小パック牛乳・フルーツジュース	毎食のデザート
遠藤章雄 様	上記商品運搬	イベント時の飲料、配布
朝アーステクニカ様	活動援助金・米・レトルト食品・文房具・お菓子・児童書 等	食材料費、食事、配布
(福) 悠久会八千代城 様	米	食事
カク七 はら梨園 様	梨	八千代カレー デザート
八千代ロータリークラブの皆様	活動援助金	食事、活動費
地域の皆様	食品等	食事

令和7年度 グリーンヒル八千代台 地域活動支援事業 予定/実績表

年	月	日	時間	主催	場所	内容	定員	名	参加人数
25	4	5	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		10
25	4	8	11:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	認知症サポーター養成講座	40		26
25	4	18	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		6
25	4	18	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		27
25	5	3	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		6
25	5	9	9:30~12:30	勝田台公民館	勝田台公民館	男の料理教室	8		8
25	5	12	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	音楽エクササイズ	40		31
25	5	16	9:30~	食まじ勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		12
25	5	16	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		6
25	5	16	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	歩き方講座	30		29
25	6	4	13:00~15:00	八千代台北東支会	北東自治会館	オレンジカフェ MIC	40		23
25	6	7	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		6
25	6	9	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	日常生活自立支援 成年後見人について	40		30
25	6	13	9:30~12:30	勝田台包括	勝田台公民館	男の料理教室	8		8
25	6	18	13:30~	勝田台包括	勝田台6丁目自治会館	栄養講座	8		5
25	6	20	9:30~	食まじ勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		12
25	6	20	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		5
25	6	20	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		21
25	6	26	9:00~12:00	八千代台包括	GHY地域交流室	白科) オールフレイル予防	15		15
25	7	2	10:00~13:00	勝田台包括	勝田台公民館	男の料理教室	8		10
25	7	3	13:30~15:30	阿蘇公民館	阿蘇公民館	コグニサイズ	15		18
25	7	5	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8
25	7	8	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	老後の住まいの探し方	40		30
25	7	11	9:30~12:30	勝田台公民館	勝田台公民館	男の料理教室	8		6
25	7	18	9:30~	食まじ勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		12
25	7	18	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		6
25	7	18	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		29
25	7	31	14~15:30	勝田台包括	勝田台公民館	車椅子介助教室	6		6
25	8	15	13:30~15:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		21
25	8	18	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	熱中症に併う脱水症の対応	40		28
25	9	6	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		9
25	9	8	13~15	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	認知症について学びよう(認知症すごろく)	40		27
25	9	10	10:00~12:00	北東自治会	北東自治会館	栄養) 予防教室	20		9
25	9	10	10:00~12:00	勝田台公民館	勝田台公民館	エンジョイライフ講座 コグニサイズ	15		14
25	9	19	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症カフェ)	30		24
25	9	19	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		6
25	9	25	9:00~12:00	八千代台包括 (GHY)	GHY地域交流室	栄養) 低栄養予防	20		12
25	10	1	10:15~11:30	千葉市	幕張西小学校	認知症キッズサポーター講座	30		30
25	10	3	9:30~12:30	阿蘇公民館	阿蘇公民館	男の料理教室	8		12
25	10	4	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		7
25	10	17	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		4
25	10	17	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		28
25	10	17	9:30~12:30	食まじ勝田台	勝田台公民館	料理教室	14		14
25	10	20	14:00~16:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	ミュージックケア	40		24
25	11	1	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		12
25	11	7	9:30~12:30	阿蘇公民館	阿蘇公民館	男の料理教室	8		12
25	11	17	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	聴こえの話	40		28
25	11	19	9:00~12:00	勝田台包括	勝田台公民館	男の料理教室	12		12
25	11	21	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		4
25	11	21	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		30
25	11	21	9:30~12:30	食まじ勝田台	勝田台公民館	料理教室	14		13
25	11	27	9:00~12:00	八千代台包括 (GHY)	GHY地域交流室	体操) フレイル	15		11
25	12	5	9:30~12:30	阿蘇公民館	阿蘇公民館	男の料理教室	8		8
25	12	6	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		7
25	12	12	9:30~11:30	千葉市	英浜打瀬小学校	認知症キッズサポーター講座	224		200
25	12	15	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	クリスマス簡易工作	40		25
25	12	19	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		31
25	12	19	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		8
25	12	19	9:30~12:30	食まじ勝田台	勝田台公民館	料理教室	14		13
26	1	7	13:00~15:00	北東オレンジカフェ	北東会館	オレンジカフェ	40		21
26	1	9	9:30~11:30	勝田台公民館	勝田台公民館	男の料理教室	8		8
26	1	10	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		7
26	1	16	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		6
26	1	16	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		39
26	1	17	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	「歩き方」を見直してみませんか	40		26
26	1	27	10:00~12:00	勝田台実会	八千代高校	福祉教育	50		50
26	1	27	10:00~12:00	勝田台包括	勝田台会館第1会議室	いきいき教室	13		33
26	1	27	AM	村上北小学校	村上北小学校	お仕事紹介	60		60
26	2	3	10:00~12:00	勝田台包括	勝田台会館第1会議室	いきいき教室	13		12
26	2	6	10:30~13:30	グランバ	阿蘇公民館	男の料理教室	6		6
26	2	7	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		7
26	2	9	13:00~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		6
26	2	9	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	英いヨガ	40		28
26	2	13	9:30~12:30	勝田台公民館	勝田台公民館	男の料理教室	8		8
26	2	20	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		8
26	2	20	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		26
26	3	6	10:30~13:30	グランバ	阿蘇公民館	男の料理教室	6		6
26	3	7	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		9
26	3	9	13:00~15:00	西北実業 認知症カフェ	愛宕会館	施設遊びあれこれ	40		44
26	3	13	9:30~13:00	勝田台公民館	勝田台公民館	男の料理教室	8		8
26	3	20	13:30~15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		15
26	3	20	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	認知症カフェ	30		18
26			13~15:00		阿黛いホーム	手芸教室 [毎週水曜日]	定員 7人		

東葛小(小川・保利・岡田) 体操班(大塚PT・武田PT) 地域班(角田・保坂・野口) 9時~10時(大竹・三井) 10時~11時(上田・花島)
 会田勝田台サークル 石川様 484-1557 勝田台公民館(久保田様) 047-485-5202 西北認知症カフェ 保坂・坂本・付田
 勝田台体操クラブ 相模 047-483-7538 コグニサークル 阿蘇 様 047-484-2574 ともカフェ 大井・町田・多田

令和7年度 事業報告

グリーンヒルキッズ

1. 事業所目標について

① 稼働率 年間稼働率 82.8% 在籍児童数 31名

- ・職員の退職に伴い、組織体制が変更になりスタート。卒業などによる利用減に対し同数程度の利用確保が出来なかったと共に、夏休みの利用が落ち込むことへの対策が不十分であったため、8月までの5か月間の稼働率が低くなってしまった。利用日の調整など対策を行い、稼働率改善を図ることで大きな成果を得られるところまではいかなかったが、一定の成果は見られた。祝祭日や長期学校休業日等は利用者が減少することに対する対策も不十分であったため、目標の稼働率を達成することができなかった。

2. 事業内容について

- ・児童一人ひとりに寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・家庭、学校と子どもの様子を共有し、コミュニケーションを大切にすることで保護者が孤立しないよう支援を行っている。
- ・茶話会は年間6回計画したが、開催は3回となった。保護者間の情報共有やキッズと保護者との信頼関係構築に大きな役割を果たしている。

3. サービス提供について

- ・開設10年目となり、5名の卒業生に対し新1年生1名の契約でスタート。
- ・学力や社会性など、一人ひとり身につけていきたい力を獲得できるよう、情緒面の安定を特に意識し、一人ひとりの特性に合わせた支援を行った。
- ・さらなる学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の機会を設け、専門性を高めていくことが必要である。
- ・3事業所となり、活動の幅が広がった。屋外活動や地域の行事への参加は、児童生徒にとって貴重な体験の場となった。中学生が加わったことで学年に応じた役割分担や多様な集団活動が可能になり、互いの交流が深まってきている。活動の様子は、ブログや毎月発行の利用申請書に写真と共に記載して保護者に発信した。

令和7年度 事業報告

グリーンヒルキッズゆりのき台

1. 事業所目標について

① 稼働率 年間稼働率 100% 在籍児童数 36名

- ・利用児童の大きな変動はなく、職員全体で日々の活動プログラムを検討し、活気ある活動を行うことができた。小学生が主体であるが、中学生・高校生も利用しているため、縦割りの活動の良さがうかがえ、お互いに学び合えるよい活動となっている。

2. 事業内容について

- ・児童一人ひとりに寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行い、特性に合わせた教材で学力の定着を図っている。
- ・社会性の向上・コミュニケーション能力の向上を図る手立てとしてソーシャルスキルトレーニングを実施し、他者とのかかわり方やルールを学ぶ支援を行っている。また、家庭、学校と子どもの様子を共有し、連携を大切にすることで保護者が孤立しないよう支援を行っている。
- ・茶話会は年間7回（4・5・6・9・10・11・2月）開催した。保護者間の情報共有やキッズと保護者との信頼関係構築に大きな役割を果たしている。

3. サービス提供について

- ・開設8年目を迎え、落ち着いた環境のもと、子どもたちにとって安心できる居場所作りができている。
- ・学力や社会性など、子どもたちが身につけていきたい力を獲得できるよう、情緒面の安定を特に意識し、一人ひとりの特性に合わせた支援を行った。
- ・さらなる学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の機会を設け、専門性を高めていくことが必要である。
- ・グリーンヒルキッズの3事業所での活動場面が増え、事業所間の職員同士の連携が密になりチームワークよく活動できた1年となった。デイキャンプなどの屋外活動やグリーンヒル高齢者施設や地域の行事への参加は、児童生徒にとって社会性を学ぶ貴重な体験の場となった。中学生・高校生との活動が増え、学年に応じた役割分担や多様な集団活動が可能になり、互いの交流が深まった。活動の様子は、ブログや毎月発行の利用申請書に写真と共に記載して保護者に発信した。

令和7年度 事業報告

グリーンヒルキッズ・ジュニア

1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 80.5%

部活動や委員会活動など、放課後に行われる学校活動に主体的に参加する生徒も多く、利用予定から急な欠席連絡も多かった。夏頃、中学3年生にとって最後の部活の大会等もあり、利用数が減ったが、体調不良で休む利用者は少なく、夏の終わりからは利用数が安定していった。

令和7年度の利用者は中学3年生が多く、令和8年度に高校生になっても利用する生徒も多くいることから、継続する利用者の利用日数を確保するとともに、新規利用者も増やすよう活動に取り組んでいきたい。

2 事業内容について

- ・生徒一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・虐待問題を抱えている生徒や、不登校の生徒には、関係機関と協力して対応している。関係機関との連携により、生徒が親と切り離された生活から通常の生活に戻り始めた事例は続いている。情報交換と支援が必要である。
- ・茶話会は、5月6月9月10月11月12月の第3木曜日に7回開催し、保護者との関係づくり、保護者同士の交流を促すことができた。

3 サービス提供について

- ・開所4年。昨年の経験を踏まえ、受験生、卒業生と関わり、受験に必要な面接の相談、練習、その他受験に必要な作文等の相談にも対応することができた。職員の経験を十分に生かした対応をすることができた。
- ・利用者の要望を踏まえ、イベントを組み込んだり、途中の交通機関の利用方法、マナー等の経験を積んだりしながら、社会との関わりをもつ活動を取り入れることができた。また、イベントを企画することで、集客の効果も期待できていた。
- ・一人一人の生徒の状況把握のためには、関係機関(特に学校など)との連携は必須であり、今年度はさらに強い連携を図ることを考えている。
- ・外出活動が増え、ブログ等による情報発信ができた。あわせて、毎月発行している利用申請書に生徒の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。
- ・長期休みなどは、グリーンヒルキッズ(ゆりのき・村上)と合同の活動を行い、ソーシャルスキルの向上に適した取り組みを行うことができ、効果的であった。

令和 7 年度 グリーンヒル若葉ハウス 事業報告
(自立援助ホーム)

1. 運営状況 (1 日付の在所人数)

- ・年間延べ人数 63 名、月平均 5.3 人であった。
- ・新規入所：8 月 2 名、3 月 1 名の合計 3 名。
- ・退所人数：9 月 1 名、3 月 1 名、合計 2 名。
- ・一時保護入所：8 月 1 名 (9/3 措置移行) 10 月 1 名 (10/28～10/30 一時保護)
- ・相談件数 15 件
 - 見学面接 7 件
 - 先方断り 3 件
- 理由 満床の為空き待ちであったが見通し立たず他施設へ。

2. 支援内容について

- ・入所児の構成は、保育専門学校 1 年 (19 歳)、通信制高校卒業求職活動中 (18 歳) 1 名、通信制高校 1 年 17 歳 (1 名)、通信制高校編入準備 18 歳・17 歳 (2 名) 県立高校入学予定 16 歳 (1 名)。
- ・生活支援、学生生活継続の支援、進学支援、就職支援、アルバイト先探し、病院同行、役所手続き、補助金等資金集め、親子関係の修復調整、様々な場所での人間関係づくりなどの支援を行った。
- ・救急対応、警察対応
- ・入所者 6 名中 6 名が精神科通院中。(うち 1 名は通院拒否)
- ・八千代市基幹相談支援センター「そら」と連携。

3. 研修 (外部)

- ・第 17 回全国自立援助ホーム長研修会 (令和 7 年 4 月 24 日～25 日)
- ・全国自立援助ホーム協議会 第 30 回 大阪大会 (令和 7 年 10 月 23 日～24 日)
- ・その他、児童虐待、子供とスマホ、子どもと共に性を育む、見えない傷と向き合う OD という現象から考える若者支援など

4. 会議

- ・毎月 1 回 (職員会議)

5. 年間の利用状況 (1 日付在所)

単位：名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
措置	4	4	4	4	5	5	6	6	6	6	6	6	63
一時保護	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	4	4	4	4	6	5	6	6	6	6	6	6	63

6. 今後の課題

関係各所との円滑な関係を構築し、10 月より満床が続いています。

若葉ハウスは常勤者 3 人の小さな組織ではありますが、放課後等デイサービスと定期的な勉強会などを開催し子ども達の支援を充実させていきます。内外の研修に積極的に参加し、専門的な知識を学び、個々の資質に見合ったより充実した支援をしていきます。安心安全な施設運営を目指します。

以 上

令和7年度 勝田台地域包括支援センター報告書

1. 勝田台地域高齢者状況（R8.3月末現在）

勝田台生活圏域人口16,405人 高齢者人口5,111人 後期高齢者数3,620人 高齢化率31.6%。

高齢者人口や高齢化率はピークアウトし低下してきているが、85歳以上人数の伸びが顕著に見られている。結果として、介護保険認定者数も増えている状況にある。

2. 事務所来所者状況

1年間に地域包括支援センターへの来所者延べ2,369人と多くの方に来所いただいている。

3. 総合相談事業実績

1年間の総合相談数延べ6,098件で、電話4,286件、来所977件、訪問698件。新規でも、955件と相談受付は多い。相談内容としては介護保険や介護に関するものが多い。令和7年度は八千代市から『申請から相談へ』の方針が打ち出され、地域包括支援センターとしてはサービス活動Cに繋ぐ流れを意識した相談対応を行った。

4. 権利擁護に関する実績

- 消費者被害防止の啓発 居宅介護支援事業所や民生委員へのチラシ配布、
勝田台自治会や勝田台小学校と共に街頭でのチラシ配布
- 高齢者虐待対応 新規受付が12件とこれまでにない状況。他包括と比べても対応延べ件数が増えている。理由としては、子世代の課題が絡む複合ケースは根が深く、対応が長期化しやすい傾向がある。
多機関連携を行うことなどにもより対応数も増えている。

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- 個別地域ケア会議実績 2件
- 介護支援専門員へのサポート
 - ・個別のケース相談
 - ・多職種連携研修会の開催
- 地域包括支援センター啓発活動
 - ・みんなの体操広場を通して地域住民へ相談機関としての周知
 - ・サンコーポ便りに地域包括支援センターの記事掲載
 - ・長寿会、図書館、サロンでの講演
 - ・支会や民生委員定例会への参加、ファミリーフェスタへの協力を通じ活動の周知
- 多職種連携
 - ・研修参加などを通して関係機関と顔の見える関係づくり、相互理解の推進
 - ・八千代市在宅医療・介護連携支援センターへの相談

○地域住民への企画

・みんな体操の広場

健康年齢の延伸を目指し、開催。地域住民に向けて定期的な運動の機会の提供や健康への意識増進のため、中央公園で平日の週4日ほど夕方にラジオ体操ややちよ元気体操など実施。年間参加者延べ4,385人。

○地域の団体の後方支援

・お番茶の会 ・ふれあいサロン ・ユーアイオレンジカフェ ・ユーアイサロン

6. 介護予防普及啓発事業

○いきいき教室 15回開催

7. 認知症地域支援・ケア向上業務

○認知症サポーター養成講座・・・元気体操応援隊

八千代高校

○家族交流会 デイサービスと共催で圏域にて初開催

○認知症ケアバスの活用

○認知症初期集中支援チームとの意見交換

○ともカフェの運営

8. 第2層生活支援コーディネーター業務

・地域住民の活動支援

・八千代市通所型短期集中予防サービスでの個別支援

・ファミリーフェスタで地域の高齢者と共に“みんなの体操広場”周知活動

9. 介護予防（要支援1・2）プラン作成 実績

1年間国保連請求総数2,434件（地域包括809件・委託1,625件）。

市の委託業務であるセンターの運営があるため担当できるプラン数に限りはある。

居宅介護支援事業所への委託をする努力をしており、件数が前年度に比べて年間270件ほど増加。

10. 連携のための会議

○運営推進会議

・小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台運営推進会議

・ニチイケアセンター八千代勝田台運営推進会議

・めいちゃんの家運営推進会議（書面）

・ほのぼの運営推進会議

・ういず・ユーデイサロン運営推進会議

○民生・児童委員定例会議

○地域包括支援センター各専門職会議

令和 7 年度 法人総務課 事業報告

令和 7 年度現状報告

労災・私傷病案件が約 30 件発生し長期・重症な案件が目立った。別途、法人内の案件対応に時間を要しており少なからず事業計画を含む業務への取り組みに影響が生じた。8 年度は事故防止の啓蒙活動について事前の注意喚起に重点を置き発生件数を減らす取り組みを行う。

人事関係

○人事労務管理

年末調整関連申告書のデータ申告について令和 7 年分を計画通り実行できたので 8 年度以降本稼働できる見通しがついた。

○勤怠システム

新システムの打刻環境の一部改修・確認作業に時間を要し、本稼働に至らなかった。打刻方法の周知・実績の蓄積・管理を最優先し 8 年度前半の実現を図る。

○人事評価システム

導入段階での職員への周知は検討会・説明会を通じ完了した。8 年度からの本稼働（昇給・賞与への反映等）に導入推進担当と協力しながら継続して取り組む。

○人材確保

学校訪問や新規求人媒体の活用など対策を講じたが目立った成果は得られなかった。特定技能外国人は 3 月に退職した 2 名の補充として 6 月に入職が決定済み。今後も需要が見込まれることから定期採用に向け取り組む。

○処遇改善加算

令和 7 年度分の支給は 8 年度夏季賞与で精算見込み。8 年度分は支給対象事業所（地域包括・居宅介護支援）が増えことを踏まえて、月次支給を基本として事業所の業績や深夜勤・夜勤等と連動した配分を考慮しながら 6 月給与から支給予定。

庶務関係

○備蓄エリアを設定して災害時の非常用ポータブルバッテリー（5 台）の購入含め、簡易トイレ・ランタン等の備品を整理した。

経理関係

○大規模修繕やテクノロジー補助金の活用など収支の変動が大きな案件が発生した
が関係者間の連携を図ることで支障なく資金移動に取り組んだ。

情報関係

○全拠点を繋ぐネットワークの構築は業者と検討を続けた結果、費用対効果の点から見送ることとなった。

○上高野への LINE WORKS 導入は運用面等を各事業所と協議しながら継続して取り組む。

野上 組織図

董事會、監事會

理部長 津川 恵子

課長 大竹 暁・課長 武藤 政英
〈法人本部〉総務・企画室

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

二 庶 三 庶
常務理事・施設長

副施設長 兼 記録部長
木下 樞子

5S奨励金

副施設長 兼 総務部長
木下 福子

[illegible]

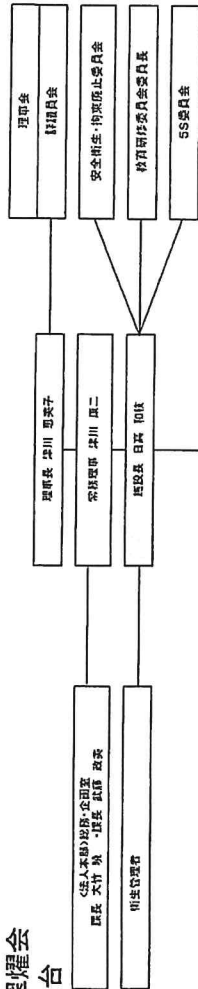
(61-1) 1/1 (4/25/95) 91

12(正口口/契約J/ハ(-15)

08(正)30/發約16//くート22)

社会福祉法人 翠耀会
組織図 八十年代台

令和8年5月18日現在
157名(正職42/契約26/パート89)



小 泉 隆 特 長 (短 所)			
ば ら	つつじ	長 の 花	新 川
係 長		短期 生活相談員	
角田 竜		防犯管理 係 出 席	
副 係 長		防犯 係 出 席 出 席	
主 任		大 塚 弘 明	
雄崎 淳子 ・ 大田立子			
副主任			
加藤 和也			
リーダー			
黒木 夏樹	中島 睦	大畑 英和	下田中 秋理子
サブリーダー			
延保分枝交還専門員			
大塚 昌夫 ・ 佐々木 守			
国検調査指導員			
警署巡査士 リーダー 大塚 昌夫 ・ 萩田 こづみ			
ケアワーカー			
和風 有香	榎下 恵子	加藤 里和	佐々木 幸
アキラ 千代子 マツタケ マツタケ	リッパ アキラ マツタケ	迫野 隆也	成田 基博
佐藤 かおり	清水 綾美子	山口 信宏	井上 昭英
	山本 恵美子	土屋 敬尚	(須)佐々木 理恵
	川崎 歩	(須)小野 夏	
田中 美代			
介助員			
〔 介 助 〕	樋口 すみ子	奥村 敦子	
〔 入 浴 〕	リーダー 黒木 愛子	郡田 由紀 代田 朱美良	
〔 当班設備 〕	田村 麻子	山崎 貞子	
	黒木 のり子		
〔 衣 着 〕	佐々木 小ゆき	田中 三樹子	
	和光 美樹	飯田 節子	
夜 直			

[illegible][illegible]

グリニヒ・ビルキップ	ゆりのき・キップ	キップ・ジュニア	21(正戦/4週31/バート14)
児童連立	児童連立	児童連立	
山崎 智代子	各名 田島子	市川 一英	
石松 かづい	中津 知真	横井 正二郎	
鈴木 良雄	五井 雄英	今村 幸明	
綿野 雄子	黒川 尚子	大塚 紀子	
	若松 良子	浮島 公通	
	若松 竜二	佐藤 晴英	
選正 番号 順度		坂本 仁	
	平橋 作田 順雄子		

7(正)1/242/5-14)

改正四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

(94-18)

(014-1/154/2010)

(91-1/1648/205)

22(正四7/24約4/1(一ト11)